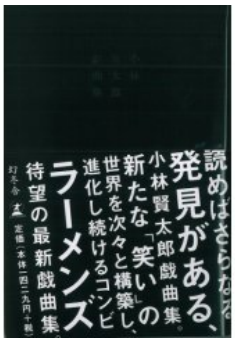
004 TICA

題名	作者	コメント	コメコメ
薩摩半島 知覧殺人事件 ～旅行作家 茶屋次郎の 事件簿～ （祥伝社文庫）	梓林太郎	読む本がなくて川崎の図書館で＜綺麗な本＞を基準に借りたのが以下の４冊。 この本はそとみは新しそうだったけど、題名どおりの中身はすごく古臭かった。茶屋次郎って…^_^; これが橋爪功主演でシリーズ化されててびっくりした。	返却に行ったら、これは図書館の本ではないと返されそうになった。じゃあ私は誰に借りたの？
心にナイフを しのばせて （文芸春秋）	奥野修司	酒鬼薔薇事件に酷似している４０年近く前の川崎のサレジオ高校での同級生殺害事件。躑躅というキイワードでうっすらとその事件を想いだした。事件後、被害者家族が壊れてしまったのに犯人の少年は出所後、名前を変えて弁護士になっていた。著者のインタビューにもまるで被害者感情を理解せず、いまだに謝罪もしていない。よく世間で言われているけど、こういう状況を読むと私も守られるものが違う気がする。	薬丸岳はこの本を読んで「天使のナイフ」を書いたんじゃないかと思うです。
いま、 会いにゆきます （小学館）	市川拓司	父と子で暮らしている生活に亡くなった妻が期間限定で現れる。最後は時間のねじれで読者を驚かせようとしているが実らない。漫画の連載で読んでいたので、話を知っていて読むような本じゃ尚更なかった。	こういう話を年くった男の人が書いていると思うとお尻が痒くなる
ビザール・ ラブ・ トライアング ル （文芸春秋）	浅倉卓弥	ファンタジーもの、タイムトラベルもの、幽霊ものが入り混じった短編。いつも言ってますが、この人の話は透明感があるので幽霊話も深夜に読んでも怖くない。	市川拓司と４歳しか違わない男の透明感にはお尻は痒くならない。なぜだ。
レボリューション Ｎｏ．３	金城一紀	落ちこぼれ高校生ザ・ゾンビーズの活躍するシリーズ。発行順は「レボリューションＮｏ．３」→「フライダディ	☆☆☆☆☆ 在日の舜臣が映画では岡田準一だっ

（角川書店）		フライ」→「スピード」で、時系列だと「フライダディフライ」→「異教徒たちの踊り（レボリューション３話）」→「レボリューションＮｏ．３(レボリューション１話)」→「スピード」「ラン、ボーイズ、ラン（レボリューション２話）」といく。 高校生の話だから子供の世代なのに、同級生のような気持ちで楽しく読める。面白い本ってだからいいよね。	たので余計にかっこよかった。岡田準一はちっちゃくて興味なかったのに『ＳＰ』ですっかりファンになっちゃった。
スピード	金城一紀	読み始めてから以前に読んでいたのがわかった。でも、『レボリューション・・』を読んだあとに続けて読んだ今回の方が断然面白かった。 出だしの仕掛けがちょいとあざとかったかな。	☆☆☆☆ 『レボリューション・・』は連作でこちらは長編。長くなってもテンポのよさは変わらない。
沈むさかな （宝島社）	式田ティエン	このミスで「四日間の奇蹟」がなかったらこれが大賞だったと言われた作品。途中から中絶した胎児の扱いがテーマになってひどく気持ちが悪くなった。これを受賞作に選んだのは男か、生理的本能を消すことの出来る女しかありえない。	サイアク(｀へ´)ノ 途中で読むのを止めた。そこから面白くなったのにと言われてもちっとも後悔しない。
吉原手引草 （幻冬社）	松井今朝子	吉原一の花魁葛城が忽然と姿を消す。葛城の周囲にいた人物１７人にインタビューをして葛城の人生をあぶりだしていく。この構成は『理由』と同じじゃないか！どぉも好みじゃないと思った。葛城の告白がないまま終わる書き手の頑張りはわかるょ。インタビュー形式は嫌いじゃないょ。殺されるのだけがミステリーとは思わないょ。だけど、ニオイを漂わせながらミステリーを読んだ気にさせてくれないから不満が残る。推理としてより、吉原の遊び方や花魁に関わる職業な	☆☆ この本と『理由』はどちらも直木賞。

		どがわかる手引書と思えばいいのか。 なんだ、題名どおりじゃん。	
償い （幻冬舎文庫）	矢口敦子	＜３６歳の医師・日高は子供の病死と妻の自殺で絶望し、ホームレスになった。流れ着いた郊外の街で、社会的弱者を狙った連続殺人事件が起き、日高はある刑事の依頼で「探偵」となる。やがて彼は、かつて自分が命を救った１５歳の少年が犯人ではないかと疑い始めるが…＞書評欄で評判がよかったので読みたかった。もっと骨太な話かと思ったら主人公は喋りすぎであまり魅力的じゃない。普通、誰かに言えばいいのにってじれるところをあっさり話しちゃう。生活ほど性格はストイックじゃないのね。 最後の待ちに待った少年の告白は淡々としすぎてひっくり返す肝心なとこで盛り上がりそこなった。 お世話になった刑事の行く末を一行でもいいから書いてほしかった。	☆☆☆☆ 人の心の泣き声が聞こえてしまう少年。 そんなに悲しむなら死んだほうが幸せだって思う少年。 私なんかにこんな声が聞こえたら、みんな辛いんだなぁって返って強く生きられるかも。
本を読む兄、 読まぬ兄 ―吉野朔実 劇場― 犬は本よりも 電信柱が好き （本の雑誌社）	吉野朔実	『お父さんは時代小説（チャンバラ）が大好き』『お母さんは赤毛のアンが大好き』に続く兄、犬。こんなに漫画が多い本だったっけ？ 前の文庫に比べて単行本は装丁が綺麗だったけど、父と母を読んだときの方が感動があった。とはいえ、弟も読みたいのよ、健ちゃん。	健ちゃんが持ってきてくれた。健ちゃんは年に二回くらい親切です。次は『弟の家には本棚がない』をお願いします。
相棒 シーズン２上		最近の『相棒』人気は高いようで映画化を前に、再放送を何度もしてくれて見ていなかった２話も見ることが出来た。オフィシャルガイドブックは健ちゃんが持ってきてくれた。もとはといえば「相棒」は健ちゃんが夢中だったドラマ。たまぁ……に趣味が合う。	
相棒 オフィシャル ガイドブック			

笑う招き猫 （集英社）	山本幸久	＜プライバシーの侵害だ！明らかにラーメンズがモデルだ！＞と片桐仁があとがきを書いていると小耳に挟んだので図書館で借りたら、あとがきがあるのは文庫本の話で単行本に仁はいなかった(>_<) この作者は賢太郎の漫画『鼻兎』の＜山もっさん＞で登場してる人。山もっさんは、今は休刊中のヤングマガジンアッパーズという本の編集者。その本に連載してたのが賢太郎の『鼻兎』。そう考えると片桐仁の言うとおり女の子のお笑いコンビのモデルはラーメンズなのかと思うけど、キャラがまるで違うので「オンエアバトル」を想い出させるところくらいがラーメンズなのかなって程度。仁さん、褒めすぎ。	Cacco さんが好きな『ピアノの森』って漫画は最初はアッパーズに連載されてたんだって。 モーニングで一話から読んでた気がしてたのは、キリがいいとこで引越ししたからわからなかったってことなのかな。
小林賢太郎 戯曲集 椿　鯨　雀 （幻冬社文庫）	小林賢太郎	「椿」「鯨」「雀」の舞台から選ばれたコントの台本。発売と同時に買ったけど、もったいなくてなかなか読みきれなかった。 前の戯曲集の『ｈｏｍｅ　ＦＬＡＴ　ｎｅｗｓ』は見るより先に読んだから映像が浮かびにくかったけど、今度はもうカンペキに見てたので賢太郎の表情までが再現された。 台本には、最初に状況説明がありそこからコントに入るが、舞台ではそんな状況は説明されずにいきなりコントに入る。途中から始まるコントになるのに自然に理解出来てしまうのは台本の力。 『ＣＨＥＲＲＹ　ＢＬＯＳＳＯＭ…』の文庫化もひじょーに待たれる。	賢太郎！ 賢太郎！ 賢太郎！

小林賢太郎 戯曲集 CHERRY BLOSSOM FRONT345 ・ATOM・ CLASSIC （幻冬舎）		急に気がついた。図書館！文庫化を待つまでもなく予約の順番がやってきて可愛く私の手元に来た。 賢太郎のアドリブはわかりやすいけど、片桐仁のアドリブと台本の境がわかりにくかったけど、これでわかった。台本がないとうまく話せない人だと知るまでは『怪傑ギリジン』シリーズはアドリブだと思ってた。あそこまできちんと片桐仁に台詞を喋らせてるとは。。 この分じゃきっと＜ＴＥＸＴ＞のジョッキー馬坂仁も賢太郎が書いたぐだぐだなんだなぁ。コントの台本を発表するなんて賢太郎って自信家なのだと思います。素敵。	☆☆☆☆☆☆ 文庫になったら 買おうっと。 絶対に持っていたい一冊。 

☆ビーズ織り　佐古孝子
☆ビーズ織り　佐古孝子
☆ビーズ織りバッグ　三浦明子・監修

麻生が来年成人式でそのときに付け襟でもビーズで作ろうかと暢気に構えていたら、写真撮りは夏前にするとのこと。
急に現実になって、それならせっかくだからめったに使わない付け襟より、のちのち私が使うかもしれないバッグがいいなと思い始めた。
ただビーズバッグは２、３年習っている人が作るもんで、私のような初心者にはまだ早い。早いがそこをなんとか！と、ビーズ織りの先生に相談。３色しか使わない減らし目の少ないバッグの写真を恐る恐る見せたら意外にも先生は「これなら出来るわよ」とあっさり。
で、糸を張るところは先生のお手てを借りて作ることにした。ビーズ代金だけで１万円を越える。失敗は許されない。そういうときにとんでもないことをやっちまうのが私なんだよねー。我ながら心配。ってか我だから心配。。

＜ＤＶＤ＞

Rahmens presents 『GOLDEN BALLS LIVE』

NAMIKIBASHI Satellite mix

小林賢太郎と小島淳二による映像製作ユニットＮＡＭＩＫＩＢＡＳＨＩの２００５年の舞台のＤＶＤ化。これには片桐仁も出ているけど、ラーメンズとはまるで別物。『ｔａｋｅ０ｆｆ』より笑える。それにしてもＤＶＤになるまでにはずいぶんの時間がかかる。今度の＜ＰＯＴＳＵＮＥＮ＞もＤＶＤになるのはいつの日か。

＜ＣＤ＞

賢太郎のコントと Fantastic Plastic Machine の田中知之の音楽が一体となった､ヘッドフォンで楽しむ新しい歌劇「ヘッドフォン・オペラ」。

これは成功なんだろうか……。
これで完成なんだろうか……。
ヘッドフォンで聴かないからいけないんだろか…。

年くってるから理解出来ないんだろか…。

きゃーー

今年は働きすぎる賢太郎。
＜ＰＯＴＳＵＮＥＮ＞が名古屋の４月１８日で終わって、２２日には東京から＜大喜利猿＞が始まった。その間にはこのＣＤとＤＶＤの発売。賢太郎も大変だけど、ついていくこっちも大変なの。お金が。